

令和2年度の学校評価（重点目標）

本年度の運営方針		<p>将来、テクノロジストとなりイノベーションを起こす人材を育成するために ～日本一の工業科高校を目指して～</p> <p>1 進学・就職の両立ができる愛知総合工科高校づくり 2 生徒に寄り添う愛知総合工科高校づくり</p>	
担当	担当の重点目標	具体的方策	留意事項
1 総務部	ア 円滑な行事の企画や運営	<ul style="list-style-type: none"> ・部会で議論するとともに、関係する部署と連携を図る。 ・部会等で積極的な意見交換を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事を円滑に運営ができたか。 ・職員の意見を反映することができたか。
	イ 教員と保護者の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者がPTA活動を通じて、生徒の学びの場を広げられるようサポートする。 ・教員がPTA活動を通じて、生徒の学びの質を向上できるよう図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA組織の活動成果が向上したか。 ・教員がPTA活動に積極的に関わられたか。
2 教務部	ア 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的な授業の実践により、知識・技術・技能の定着を図る。 ・朝学習のシステム確立を目指すことで、基礎学力醸成の一助とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で協力し、確かな学力の獲得を目指した授業の実施を図り、PDCAサイクルを活用した授業改革に取り組む。 ・生徒の取組状況を全職員で共有し、教科・学科・学年・各分掌と連携して、効果的な「朝の学習の時間」の実施を図る。
	イ 確実なデータ管理と分掌を超えた協働体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・成績や出欠データを着実に管理できるよう各学年や教科に依頼し、協働体制で書類作成を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部会を定期的に開催し、データ管理において情報共有を図るとともに、各分掌や学年、教科と協働体制を確立して働き方改革に取り組む。
3 生徒指導部	ア 基本的な生活習慣の向上 ・挨拶の奨励	<ul style="list-style-type: none"> ・場面に配慮した「元気な挨拶」を心掛ける。 ・身だしなみをはじめとする自己管理が行える取組の機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原因となる部分を導き出し、自ら進んで行うことができる態度の育成を目指す。 ・各学年、家庭や地域、警察署とも連携しながら行う。
	イ 交通事故防止の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いての講話の機会を作る。 ・学年集会や全校集会の機会を捉えたり、リーフレットの活用をしたりして、交通事故の防止を訴え、「かけがえのない自他の生命」の大切さを育む。 	
4 生徒会部	ア 生徒会執行部、議会、各種委員会の活動を通じて将来につながるリーダーシップの獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が行う会議にリーダーを設け、リーダーを通じて会議を進行していく。 ・生徒会執行部会を週に1回以上、議会を月に1回程度、学校行事開催前に各行事の実行委員会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとしての自覚をもたせ、自分の発言や行動により、どういうことが起きるのか、様々な視点で考えさせるようにする。 ・PDCAサイクルを実行し、物事の進め方の基礎を学べるようにする。
	イ 生徒が主体となった、学校行事や部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事実行委員会、部長会を開催し、生徒が主体的に行動できるような仕組み作りを構築する。 	

5 保健部	<p>ア 自発的な環境美化意識の育成 ・日常の清掃活動の充実</p> <p>イ 健康教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃道具の充実を図るとともに安全点検を定期的実施する。 ・生徒美化委員会活動を充実させる。 ・個別指導を通して、自己の健康に関心をもたせ、自己管理能力の向上を図る。 ・生徒保健委員会活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各清掃区域の実態に即した清掃道具の確保に努力する。 ・生徒の奉仕活動の定着を図る。 ・体調の自己管理表を活用し、新型コロナウイルス感染症や熱中症の予防と健康管理に努める。 ・「保健だより」や掲示物を通じて情報を発信する。 ・広報活動と安全点検を実施し、学校の安全と衛生に努める。
6 図書部	<p>ア 魅力的な学校図書館の構築</p> <p>イ 主体的に取り組める図書委員会活動の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書選定委員会を中心に魅力的な図書館メディアの選定を行う。 ・生徒及び教職員を引き付ける図書館施設と機能づくりを行う。 ・従来からの図書委員会活動に加えて、新たな図書館行事を開催し、図書委員に主体的な取組を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の図書情報を収集するとともに、広い範囲から希望図書を募る。 ・展示や掲示物の工夫、全校的な図書館行事の開催により、図書館の魅力を広める。 ・行事の企画から運営に至るまで、図書委員が主体的に取り組める手立てを講じる。
7 進路指導部	<p>ア 企業の一次内定率や公務員希望者の合格率向上</p> <p>イ 企業内学園等(専攻科含む)合格60人を目標 ・ものづくり現場のリーダーの育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習、面接指導の充実を努める。 ・キャリア教育を更に強化して、学習意欲をより喚起し、進路意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて面談を実施し、将来を見据えた進路計画を意識させる。 ・自分の可能性、工業人としての在り方について、キャリア教育活動を通して育成する。
8 進学部	<p>ア 3年後を見据えた計画的な進路指導の実現</p> <p>イ 国公立大学合格50人を目標 ・学びの継続による工業系リーダーの育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した進路指導を行えるよう進路ホームルームや学年の進路行事を計画的に行う。 ・進路検討会を通して、学年と学科間の連携を深め、生徒の進路実現に関する業務を円滑に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年を通して一貫した情報を提供できるようにする。 ・生徒一人一人に沿った指導を心掛ける。
9 工務部	<p>ア 工業に関する興味・関心を高める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種資格、検定試験について冊子を作成し、生徒へ情報発信する。 ・愛知県職業教育技術顕彰やジュニアマイスター顕彰の取得を促す。 ・課題研究の発表会や研究集録の作成を通して、工業科の取組を広く伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科、関係分掌との連携をもとに、きめ細かな情報発信に努める。 ・課題研究の内容を、生徒をはじめ、職員・保護者・企業等へ発信できるように工夫する。
10 広報部	<p>ア 学校の活動実績や、本校生徒の自律性を広報</p> <p>イ 自ら学び、考え、行動し続ける力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報、連絡、提供、交流などの情報公開機能を速報性、貯蓄性を意識してホームページで公開する。 ・スコラ手帳を用いて、生活習慣を整え、先を見通す力の育成を目指す。 ・企業連携・大学連携により、探究学習できるシステムの構築を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エドテックによる教育のICT化を促進し、学校・社会を結ぶ教育現場の見える化を実現する。

11 1 年 生	ア 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の遅刻状況や早退、欠席の有無を把握し、該当生徒に、日々声掛けをし、生徒の基本的な生活習慣の確立を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が、健康管理や時間への意識ができるように指導する。 保護者との連携を図り、連絡を密にするよう努力する。
	イ 学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査や基礎学力テストの結果を活用し、面接週間の際に、生徒に学習に関する指導、助言を行い、学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の重要性や考査への事前対策などの意識をもたせる。
12 2 年 生	ア 基本的な生活習慣の確立と主体性ある行動の意識付け	<ul style="list-style-type: none"> 学校外でも主体的に責任ある行動がとれる大切さを説いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 愛知総合工科生の一員であることを理解させ、責任ある行動をとれるように導く。
	イ 進路実現に向けての準備	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上を進め、進路目標達成のための能力を育成する。 進路指導部、各工業科と連携をとり、進路目標を定めさせて進路指導の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習を通して勉強する習慣を身に付けさせ、進路実現に向けた学習の準備を行う。 やりたいことではなく、今やるべきことを最優先するように導く。
13 3 年 生	ア 基本的な生活習慣の充実	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習への取組を充実させるため、遅刻防止指導を徹底する。 自ら挨拶が行えるように指導する。身だしなみ指導を一回で終わらせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年のスローガンは「自覚」である。責任ある言動ができるように意識させる。 挨拶、身だしなみ等を再確認させる。
	イ キャリア教育の結実	<ul style="list-style-type: none"> 就職者の一次合格を100%、進学者の国公立合格者数は50名以上を目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 早めに進路を決定させ、綿密な計画を立て、進路実現に向かって邁進させる。
14 機 械 系 学 科	ア 高等学校工業基礎力テスト・検定等の得点・合格率の向上	<ul style="list-style-type: none"> 自ら考えて進める授業を実践し、主体的な学びを促す。 問題集を活用し、知識・技能・技術の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の能力に応じた学びができるよう配慮する。
	イ 自ら考え、行動できる力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 実習の取組にPDCAサイクルを組み込み、主体的な学びを通して、自ら考えて行動する力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びの成果を実感させ、生徒個人の成長に合わせた目標設定をさせる。
	ウ 社会人基礎力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 実習の振り返りを実施し、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 進度に合わせて振り返りの時間をつくり、キャリア形成に必要な力を身に付けさせる。
15 電 気 系 学 科	ア 学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 基礎、基本的な知識と技術の習得をさせる指導の充実を図る。 資格取得指導の充実を図る。 論理的思考力と創造力をもった技術者の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能力を把握し、個々の生徒の能力に合わせた指導を行う。 実習、課題研究で自分の成果を発表させる場を設定する。
	イ 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育活動に参加させ、実践的な知識や技術を学ばせ、個々の生徒が目指す進路について調べさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な時期に情報提供し、個別相談も含めて指導する。
	ウ 生活指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 人と社会との間で自分をうまくコントロールできる人間の育成。 自分らしい生き方や成功を求められる人間の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間力の育成を目指し、教員が生徒に前向きな姿勢で指導に当たる。

16 建設科	<p>ア 工業教育の強化</p> <p>イ 進学・就職の両立ができる学科づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資格、検定試験の指導を充実し、建設分野に対する興味・関心を高めさせ、学習習慣の定着と学力の向上を図る。 産業界や大学などの外部機関と連携して、知識・技術の習得とコミュニケーション能力の向上を図る。 国公立大学への推薦進学、技術職公務員や企業（技術職）への就職を支援する進路指導体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望を把握、情報共有し、個々に応じた指導を心掛ける。 進路指導部、進学部や学年会と連携を密にし、生徒に寄り添った指導に取り組む。
17 応用化学科	<p>ア 確かな学力を身に付けるための学習指導の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> 化学の特性を生かし、生徒が好奇心を抱く授業展開を行う。 実習、課題研究では生徒自らが前向きに挑戦できるように、教員がアドバイスをを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員間の情報の共有化と連携を密にし、個々の生徒に寄り添った指導を実施する。
18 デザイン工学科	<p>ア 進路指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 1、2年生への対応 3年生への対応 <p>イ 地域、企業、大学との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> デザイン業界や大学の特色などの情報を提供し、希望進路を定める。 進路面談を充実させ、多様な進路に対応した補習を実施するなど、進路実現に取り組む。 学校内にとどまらず、社会の情勢を踏まえた学習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職する業種に必要な能力や条件等を周知し、進路実現に向け有意義な学習をさせる。 教員が連携し、進学希望者に対して入試対策の実技指導を計画的、継続的に行う。 最新の設備やスキル、デザインプロセスに触れる機会を増やし、より実践的な授業を展開する。